

第二十七回 帝國議會 蠶絲業法案委員會議錄(速記)第二回

會議

明治四十四年二月十五日午前十一時五十分開議

出席委員左ノ如シ

野田 卯太郎君

福田 小次郎君

村上 先君

築山 和一君

橋本 久太郎君

ト部 喜太郎君

平島 松尾君

中島 祐八君

久保田與四郎君

關口 安太郎君

島田 保之助君

武藤 金吉君

翠川 鐵三君

農商務大臣左ノ如シ

農商務大臣 男爵大浦 兼武君

出席政府委員左ノ如シ

農商務省農務局長 下岡 忠治君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

蠶絲業法案

○委員長(野田卯太郎君) ソレデハ開會致シマス、ドウガ 大臣及政府委員カラ今日

ハ御説明ヲ希望致シマス

○農商務大臣(男爵大浦兼武君) 大體ニ付キマシテハ先日衆議院ノ本會ノトキニ

説明ヲ致シテ置キマシタガ、海外ニ於ケル蠶絲ノ生産並ニ消費ノ狀況ニ鑑ミマシテ、

益々我蠶絲業ノ基礎ヲ鞏固ニシナクテハナラヌ、世界ノ市場ニ優勝ノ位地ヲ占メンガタ

メニ當業者ノ歩武ヲニ致シテ、以テ此生產品ノ改良發達ヲ圖ルト云フコトハ洵ニ刻

下ノ急務デアルト考ヘルノデゴザイマス、然ルニ現行蠶病豫防法ト云フモノハ十分ニ其

目的ニ副ハヌノデゴザイマシテ、加之豫防事務所ニ於テモ洵ニ不備ノ點が尠カラヌノデ

アグテ、是ニ於テ新タニ蠶絲業ト云フモノヲ制定シテ、蠶病豫防事務所ノ不備ヲ補ヒ、

尙生產品ノ改良ノ統一並ニ蠶絲業者ノ組合ニ關スル規定等ヲ設ケタイトト云フコトデゴ

ザイマス、本案ノ要旨ノ箇條ヲ舉ケマスレバ、第一ニ蠶絲製造業ハ特別ノ技能ト相當

ノ設備ヲ要スルモノデゴザイマスラシテ、之ヲ以テ免許營業トナシタルコト、第二ニ蠶病

豫防ノ效果ヲ完ウシテ製品ヲ改良セシメ、兼ニ蠶種ノ雜駁ナルコトヲ防グタメニ指定シ

タル地方以外ニ自家用蠶種ヲ製造セシメザルコト、第三ニ蠶病豫防費が近年非常ニ増

加シテ地方ノ負擔ニ堪ヘザルモノアルコトヲ認ムルトコロガゴザイマスカラシテ、蠶種検査

ニ關スル手數料ヲ徵集セシムルタメニ組合ノ設置ヲ勧誘シ、之ヲ結合シテ聯合會トシテ、更ニ

聯合會ヲ集メテ中央會ヲ組織セシムルコト、第六ニハ蠶病豫防其他ニ對スル監督ノ規定ヲ改正シタルコト、此等が今度蠶絲業法ノ提出ノ最モ肝要ナル點デゴザイマス、尙細カイ

簡條々々ニ於キマシテハ農務局長ヨリ申上ゲルコトニ致シマス

○村上先君 チョット議事ノコトニ付テ——本案ニ對シテハ本會議ニ於テ武藤金吉

君ノ質問ニ對シテ農務局長カラ大分明細ナ説明ガゴザイマシタカラ、別ニ此際政府委員ノ細目ニ瓦ル説明ヲ致サレズ、直ニ質問ニ入ランコトヲ希望致シマス

○委員長(野田卯太郎君) 先刻皆カラ今日ハ説明ダケ聞イテ散會スルト云フ 話デアリマシタカラ……

○政府委員(下岡忠治君) ソレデハ大要ヲ搔摘シテ申上ゲマス、各條ニ瓦ツテノコトハ御質問ニ應ジテ御答致シマス、唯今大臣カラ大體蠶業法ヲ制定スル要項ニ付テノ點ヲ列舉セラレテゴザイマスカ、其各點ニ付キマシテナセサウ云フ風ニスル必要ガアルト云フ點ヲ搔摘シテ御参考ニ供シマス、第一ニ現行ノ蠶病豫防法ハ不備デアル、ドウシテモ現行ノ蠶病豫防法ノ改正ヲ行フキ必要ノ點ガアル、是ト同時ニ蠶絲業界ノ進歩ニ伴フテ其以外ニ積極的ニ規定ラシテ、是カラ先キ改善進歩ヲ圖ル必要ガアルト云フヤウナコトカラ、サウ云フモノヲ總括シテ蠶病豫防法ト云フノヲ、即チ蠶絲業法ト云フ新タナ法律ニ致シタノニアリマス、併シ其中ニハ蠶病豫防ノコトモ澤山ゴザイマス、先ダ第一ニハ蠶病豫防法ニ對スル點ニ付テドウ云フ改正ヲシタコト云フト、其中ノ一ガ蠶種製造業ヲ免許營業ニシタト云フコトガ一デアリマス、御承知ノ通り現行法ノ規定ニ依リマスト蠶種製造家ト云フモノハ任意ニ居ケ放シマスレバ、製造業が出來ルコトニナツテ居リマス、所ガ段々製造業者ノ現況ニ見マスルト、一時種ガ賣レサウダトニ云フ場合ニハ隨分投機的ニ——設備モセズ、又製造業ニ付テノ經驗モナクシテ俄ニ蠶種製造家ニナツテニヤイ種ガ欲シニハ極マツテ居ルケレドモ、値段ノタメニ制セラレテツイ不正手段ニヨリテ掠ヘタ種ガ能ク賣レテ、是マテ信用アリ、順序能クヤツテ居ル營業者が非常ナ妨害ヲ受ケルコトガ度ミアル、其故ニ蠶種製造業ト云フモノガ特別ノ技能ヲ要シ、設備ヲ要シ、ノ設備ヲ要スルモノデゴザイマスカラシテ、之ヲ以テ免許營業トナシタルコト、第二ニ蠶病豫防ノ效果ヲ完ウシテ製品ヲ改良セシメ、兼ニ蠶種ノ雜駁ナルコトヲ防グタメニ指定シ

他警察上ノ取締ニ關スル各種ノ營業モ皆免許營業ト云フ制度ハ澤山行ハレテ居ル、ソレバナシニ自由營業ト云フコトニセズシテ免許營業ニ依シテ束縛ヲスル必要ガアル、是ハ寧ロ蠶種製造家ヲ保護スル方デ、正當ナル蠶種製造家ヲ保護シテ投機的ニ一時ヤルヤウナ製造家ノナイヤウニシタイト云フ趣意カラ出テ居ルノデアリマスガ、其資格ハドウ云フ風ニナルカト云フト、初メカラサウムゾカシイ資格ヲ定メル譯ニ參リマセヌ、施行規則ニ於テ案モ出來テ居リマス、ソレニ依シテ見レバ一定ノ桑園ヲ持テ居ル、或ハ設備ヲ相當ニ持ツテ居ル、即チ蠶室蠶具が備ハシテ居ル、或ハ從來斯ワ云フコトニ付テノ經驗ガア

ルトカ、或ハ一定ノ教育ヲ受ケテ居ル、此人ナラバ蠅種製造業者トシテノ技術ヲ具ヘテ居ル、若クハ自分ニ具ヘテ居ラヌデモサウ云フ人ヲ抱ヘテ居ルト云フヤウナコトヲ資格ノ點ニスルコトニシテアリマス、初メカラ非常ニ蠅種製造業者ノ數ヲ少クシテ大變ムアカシイ規則ヲ設クルコトニスルト、大打擊ヲ與ヘルカラ、先ツ初メノ間ハ嚴重ナ資格ヲ設ケズシテ徐々ニ斯ウ云フモノヲ取締シテ立派ナ蠅種製造業者ヲシテ營業ガ立派ニ立ツテ行クヤウニシタイト、斯ウ云フ趣意カラ出來テ居リマス、第一ハ自家用ノ蠅種ヲ製造スルコトヲ大體ニ於テ廢メニスルト云フ規定ヲ設ケタノアリマス、是ハ餘程從來カラ屢々議論モアリ研究モシタノデゴザイマスガ、段々蠅種製造ト云フコトガ一ノ特別ノ技能ノヤウナ風ニ進ンデ來ルニ從ツテハ、モウ自家用デ之ヲヤラヌト云フコトハ廢メテモ宜イ時機ニ到達シテ居ルデアラウ、勿論其非常ニ僻遠ナ地デアルトカ、マルデ是マテ養蠅業ト云フモノガ無カツタ處デ、唯自分ノ家デ慰ミニ、少シクヤルト云フヤウナモノマデモ取締ル必要ガナノデアリマス、併シ大體カラ言ツテ見マスト種ト云フモノハ成ルベク品位ノ良イモノヲ作ズテ、ソレヲ養蠅ノ製糸用種ニ使フト云フコトガ通常ノ順序デアルカラ言フト専門家ニ作ラシテ養蠅家ハソレヲ買フト云フヤウニスル方ガ今日ノ時機ニ適合シテ居ル處置アル、隨ツテ自家用ノ蠅種ハ先ツ大體ニ於テ廢メル主務大臣ノ指定シタ地方ノ外ハ之ヲ廢メルヤウニシタイ、トスウ云フ考デアリマス、殊ニ一方デ此雜駁ナル蠅種ト云フコトニ付テノ現況ニ付テハ皆サン御承知ノ通リデアリマス、蠅種統一ト云フ問題ノ起ルノモ即チ此點カラ起ツテ居ルノデアリマスカラ、自家用蠅種ヲ認メル儘ニシテ置ケバ益ミ雜駁ヲ獎メルコトニナリマスノデ、其點カラ考ヘテ見テモ即チ蠅種統一ト云フコトノ急ヲ認メル上カラ考ヘテモ自家用蠅種ハ成ルベク之ヲ廢メサスト云フ 方針ヲ採ツタ方が宜イ、トスウ云フ考デ新ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケタノデアリマス、併シ今申ス通リニ或特別ノ地方、極ク僻遠ナル方面ニ於テハ主務大臣ノ指定シタ地ニ限ツテ例外ヲ設クルコトニスルト、斯ウ云フ考デアリマス、ソレカラ第三ニヤハリ蠅病豫防法ニ關スルコトニ付キマシテ蠅種検査ノ手數料ヲ徵收スルコトノ規定ヲ設ケタノデアリマス、此規定ハ御承知ノ通り現行ノ蠅病豫防法ノ前ニアツタノデゴザイマシタガ、ソレガ消ヘテ今日テハ手數料ノ規定ハナクナツテ居リマス、ソレヲ云ハバ復活スルコトニナルノデアリマス、御承知ノ通り現在ノ蠅病豫防法ヲ拝ヘタ時分ノ見込ノ想像トハ今日デハ非常ニ蠅種検査が殖ヘテ來タニ違ヒナイケレドモ、其以外ニ大ナル、殖ヘテ來テ居ル原因ガ一ツゴザイマス、ソレト云フノハ現在ノ規定カラ申シマスルト原種ハ粹製ニスペシト云フ規定ニナツテ居リマス、即チ原種トシテ使フトコロノモノハ必ズ粹製ニスルト母蛾ノ検査ヲスルコトニナツテ居リマス、真ノ原種——蠅病豫防法ノ認メテ居ル真ノ原種 御承知ノ通り真ノ原種カラ製絲用種が出來ルモノデアリマス、然ルニ現在ハ原種ト云フ名前ヲ借リテサウシテ粹製ニシテ其物ヲ真ノ原種以外ノ製絲用種ニ使ツテ居ル部分ガ非常ニ多イト云フノハ、世ノ中ガ進歩シタ結果普通ノ製絲用種ヲ使フモノデスラ粹製ニシテ貴ヒタガツテ、粹製ノヤツヲ需用スルコトガ非常ニ多クナツテ來マシタカラ、現在検査ヲシテ居ルトコロノ全體ガ是ダケノ母蛾検査ヲシテ居ルモノト假定スルト、蠅病豫防法ニ於テノ真ノ原種ハ二割カ二割、ソレダケヤツテ居レハ後トハセイデモ宜イコトニナツテ居リマス、然ルニ真ノ原種以外ニ製糸用種ニ使フモノヲ粹製ニシテ、其粹

製モ一々ヤハリ其検査ヲ受ケルコトニナツテ居リマスカラ、現行蠅病豫防法ガ豫期シテ居ル原種以外ノ製糸用種トシテ粹製ナルモノモ非常ニ多ク、其モノガ皆検査ヲ受ケテ來ル状態デアリマス、原種ハ粹製ニスベシデアルノヲ粹製ハ原種ナリト云フ状態ニ今見テ居ル、ソレガ皆持ツテ來ルト云フコトニナツテ居リマスカラ、現行蠅病豫防法ガ豫期シテ居ルコトニナツテ使ツテ居ルモノト、平付トシテ製糸用種ニ使ツテ居ルモノトノ割合ヲ見マスルト、ヤハリ平付ガ七割ニナツテ居ル、粹製ハホノニ割以下ニナツテ居リマス、所ガ段々粹製ヲ希望シテ來テ、平付デ減ルコトニナルト、ヤハリ粹製ガ殖ヘル、隨ツテ母蛾検査ガ殖ヘルコトニナツテ居リマス、今日ノ百万圓ト云フモノハ非常ニ將來ニハ殖ヘルト云フコトハ是非常ニ一方蠅糸業ノ進歩ノ上カラ云ツテモ、サウ云フ状況ニ立至ツテ居リマスカラ、サウスルト現在百万圓使ツテ居ルモノガ遠カラズシテマダノ、是ガ殖エルデアラウト云フ状況ガ見エル状態デアリマス、然ラバ其金ハサウ云フ風ニナレバ、或ハ國庫デウント金ヲ出スガ宜イ、或ハ地方費デ出セバ宜イデハナイカト云フ御論モ出マセウガ、是ハ無論尤モナ論デアリマスルケレドモ、一方國庫ノ方デハ現在デハ十万圓ト云フ金ヲ出シテ居リマスガ、即チ全體ニ對シテハ一割足ラズ——蠅病豫防費ノ全體ニ對シテ一割足ラズノ補助シカ出來テ居ラス、其金ヲ今日殖ヤスト云フコトノ財政上ノ状況デモナシ、サウスルト府縣ノ負擔が非常ニ多い、或地方ニ於キマシテハ十萬圓以上負擔ヲシテ居ル所ガアル、此豫防費ノタメニ少クトモ一萬圓ヤ一萬五千圓負擔シテ居ル所ハ澤山アル、年々歲々此費用ニ付キマシテハ府縣會アタリデモ隨分ヤカマシイ議論ガ起ツテ居リマシテ、所ニ依ルト特別稅トシテ蠅種ニ對シテ課稅ヲシテ居ル所モゴザイマスガ、併シ當業者アタリノ一般ノ話カラ考ヘテ見テモ何處モ同ジヤウニ相當ニ取ルノナラバ五十錢モスルトコロノ蠅種一枚ニ對シテ一錢ヤ三錢四錢ハ大シタ負擔デハナイケレドモ、甲縣デハ取ルガ隣リノ縣デハ取ラスト云フコトニナルト、詰リ甲縣ノ蠅種製造家ハ乙縣ノモノヨリソレダケ負擔が重イ、言葉ヲ換ヘテ申セバ製產費ガ多イコトニナツテ居ツテ、ナルカラ何處モ平等ニ或ハ平等デナクトモ少クトモ、何處モ同ジヤウニ取ルコトナラハ敢テ其位ノ負擔ハ構ハヌト云フコトハ能ク言フテ居リマス、現ニ岐阜縣デ取ツテ居ル、所ガ隣リノ愛知縣デハ取フヌタメニ岐阜縣デハ非常ニ苦情ヲ言フ——蠅種製造家ガ苦情ヲ言フ、所ガ縣ノ方カフ言フト今申ス通り負擔ヲ多クスレバ餘り大ナル苦痛デハナイト云フコラ、マア當業者ノ方デモ今申ス通り負擔ヲ多クスレバ餘り大ナル苦痛デハナイト云フコトハ當然デアル、一番名案ハ國庫デ負擔スルト云フコトニスレバ一番宜イノデアリマスガ、現在ノ財政状態デハトテモソレハ許サヌ現在府縣デヤツテ居ルコト總テヲ國ガ經營スルト云フコトニナルト、府縣デ百万圓デヤツテ居ル仕事モドウシテモ百万圓ヨリ以上ノ金ヲ費

サナケレバナラヌト云フコトモ覺悟セナケレバナラヌ、幾ラデモ殖エテ行クト云フ有様デアリマスカラ、トテモ是ハ國庫デ負擔スルト云フ譯ニイカヌ、然ラバ府縣ノ現在ニ於ケル負擔ヲ輕減スル方法トシテ手數料ヲ徵收スルヨリ外ニ仕方ガナカラウ、斯ウ云フ考テ此規定が出来タノデゴザイマス、但シ手數料ヲ徵收スルコトヲ得ト云フコトニシテ居ルト規則ガ腹味デアル、ソレ故ニ甲縣ト乙縣トノ平等ニナルト云フコトモアルカラ、何處モ取ルト云フ主義ヲ定メテ第二十七條ノ規定ヲ設ケタノデゴザイマス、テ此蠶病豫防ト云フコトニ付ト云フコトニ付テ百万圓カラノ金ヲ使ツテヤツテ居ルトコロノ實效ハ上ツテ居ルト云フコトハ認メテ居ル、大體ニ於テ百万圓ノ金ハ決シテ無駄ニナシテ居ラヌ、是ガタメニ日本ノ蠶絲業ノ進歩ト云フコトハ確ニアルト云フコトヲ認メテ居ルノデゴザイマス、現ニ製絲用ニ使フトコロノ梓製ト云フモノヲ見テモ、母蛾検査ガ效力ノ少クナイモノデアルト云フコトガ分ル、弊害ガアル、缺點ガアルト云フコトヲ申シマスレバ、確ニ現行ノヤリ方ニ於テモ缺點モアラウト思ヒマス、ケレドモ併ナガラ今日ハ是ヨリ外ニアル方法ガナイ、段々試驗研究ノ結果又學理上ノ發明モ出來ヌトハ限リマセヌカラ、蠶病豫防ノ效力ヲ多クスルコトヲ講究セヌケレバナラヌト云フ考テゴザイマスケレドモ、今日ノ所デハ他ニ方法ガナイ、細目ノ點ニ改良スベキコトガゴザイマスケレドモ、之ヲ改良スルト云フコトニ付テモ、名案がナイモノデゴザイマスカラ已ムヲ得ズ現在ノ流儀テヤツテ居ル、併ナガラ一方ニ於テハ餘程學理上ノ關係モ多ク又技術ニ影響ノ多イコトデゴザイマスカラ、學理ナリ技術ナリノ研究ヲ進メテ行テ、原蠶種ノ豫防ノヤリ方ニ付テ缺點ノアル所ハ段々矯正シテヤルト云フ考ヲ持ツテ居リマスガ、兎ニ角現行ノ蠶病豫防ノヤリ方ニ付テモ近來漸次減ツテ來外ニ母蛾検査ト云フモノヲ認メテ居ル、現ニ微粒子ノ病毒ニ付テモ近來漸次減ツテ來テ今日デハ八「パーセント」位ニナシテ居ル、以前ハ二割五分カラ一割位デアタノガ、今日デハ段々減ツテ來タ、是ヲ根絶シナイカラ、蠶病豫防ハ效果ガナイト斯ウ云フ人モアルカ知ラヌガ、是ハ飛デモナイ話テアル、是ハ人間ノ肺病ノ如キモノア如何ニヨク検査ラシテ見タ所デ蠶ノ微粒子ト云フモノハ根絶スルコトハテモ出來マイト思フ、

テモ微粒子が減シテ行クト云フコトハ確ニアルト云フコトハ認メテ居ル、蠶依ヅテハ出來マセウ、ソレニ付テハ努メダケ努メナケレバナラヌト云フコトハ認メテ居ル、蠶病豫防ハ何モ效果ガナイト云フケレドモ、サウ早ク出來ルモノデハナイト十數年來ノ傾向ヲ見テモ、多大ノ金ヲ使ツタケノ效果ハ舉ガシテ居ルト云フダケノ考ハ持ツテ居ルノデアリマス、ソレデ縣ガ引受ケテヤルト云フナラバ、ソレニ對シテ手數料ヲ取ルト云フコトハ之ハ理窟ノ事柄ハ弊害モアルシ缺點モアルト云フコトハ、ソレハ無論認メテ居ルノデゴザイマスケレドモ、断然之ハ手數料ヲ徵收スルト云フ主義ヲ執ル、斯ウ云フ考テヤツノデアリマス、ソレニ關シテ國庫補助ニスル規定ヲ削除致シマシタ、是ハ現行ノ國庫補助ノ規定ト云フモノハ御承知ノ通リ國庫ハ蠶病豫防ニ對シテ其半額以内ヲ補助スルコトヲ得ト云フ規

定ニナシテ居ル、國庫が半額以内ヲ補助スルコトヲ得ト云フ極ク曖昧ナ規定ダカラ補助ヲシャウト思ヘバ補助が出來ルノデゴザイマスカラ、其法律ノ規定ニハ餘リ重キヲ置テ居リマセヌテ、豫防費が段々多クナシテ來ルト云フ有様デアルカラ僅カ、十万圓位ノ補助デハ餘リ効力ノアルモノナイ、デアルカラ十万圓ト云フ金ハサウ云フ餘リ効力ノ少イモ效果ヲ疑シテ居ル人が隨分ゴザイマスケレドモ、政府ノ見ル所デハ大體ニ於テハ蠶病豫防ト云フコトニ付テハ認メテ居ル、大體ニ於テ百万圓ノ金ハ決シテ無駄ニナシテ居ラヌ、是ガタメニ日本ノ蠶絲業ノ進歩ト云フコトハ認メテ居ルノデゴザイマス、現ニ製絲用ニ使フトコロノ梓製ト云フコトヲ見テモ、母蛾検査ガ效力ノ少クナイモノデアルト云フコトハ飛デモナイコトデアル、併シ漸進的ニハ確ニ行クダラウカラ、以來其方針デウ云フコトハ豫算委員會モ大臣ヨリ辯明致シタ通りアリマス、大體斯任意ニ配付ヲシテ強制ヲシナイト云フコトニスル以上ハ、直接ニ此規定ハ影響ガアルト云フ譯デハゴザイマセヌケレドモ、併ナガラ先ニハサウ云フコトヲスルト云フ見込テアル以上ハ相當ナル規定ヲ茲ニ入レテ置ク必要ガアル、殊ニ此地方ニ於キマシテハ、或程度マデ之ヲヤツテ居ル處ガアル、又ヤツテ效力ガアル、唯ドコモ同ジヤウニ一律ノ規定ノ下ニヤル譯ニ往カヌガ、地方ノ狀況ニ依ツテハ斯ウ云フコトヲスルト云フ所ガアル、全體ニ主務大臣ガ原蠶種ニ關スル種類ノ限定ヲシ、或ハ製造授受等ニ付テ制限ヲスルコトノ出來ル規定ヲ設ケルノミナラズ、地方ニ於テモ或地方ヲ限ツテサウ云フコトヲスルト云フコトヲ認メルノハ、時宜ニ適シタル方法デアラウト思フ、現在縣會デ匡正シテ居ルトコロハゴザイマセヌガ、組合デ以テ蠶種製造家ハ此繭ヲ使ハナケレバナラヌト云フコトハ鳥取縣等デハヤツテ居ル此結果ハ大變宜シイ、組合ノ規定ヲ出るルコトデアリマスカラ場合ニ依リマシテハ縣會デサウ云フコトヲ出來ナイコトハナイ、サウ云フ方法デシタイ、ソレヲスルニ付テハ鄭重ニ考ヲヤラナケレバナラヌ、第二十三條ニ於キマシテハ地方長官ハ必要ニ應シテ種繭審查會ヲ設ケルコトニシテ居ル、種繭審查會ハドウ云フモノデアルカラト云フニ先づ製絲家養繭家蠶種製造家及ビ縣廳等ノ技師ト云フヤウナ人ミヲ網羅シテ所謂蠶絲業ニ關スル専門ノ人ミヲ集メテ其人ミノ意見ニ依ツテ大體ノコトヲ定メテ、地方長官ガ之ヲ採用シテ行クトニスレバ誤リハナカラウト思フ、机ノ上ニ一人ヤ三人ノ者ガヤツノデハケンノンデアル、又第十八條ノ規定ニ依ツテヤツテモ宜シイ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居リマス、尤モソレハ地方ニ付テアリマスガ、中央政府ニ於キマシテモヤハリ種繭審查會ト同様ナモノハ設ケル積リデアリマス、昨日協賛ヲ經テ居ル豫算ノ中ニモ費用ノ一部ハ取ツテアリマセウガ、何レコチラデモ種類ヲ製造シタリ、イロノクスル上ニ付テハ各種ノ専門家ノ意見ヲ徵サナケレバナラヌ、又第十八條ノ規定ニ依ツテ主務大臣ガ限定ヲ行フ場合ニ於テモ、ドウシテ各方面ノ人ミノ智識ヲ網羅シテ一定ノ方針ヲ定メテ行カナケレバナラヌト云フ考デアリマス、サウ云フ人ミヲ委員ニシテ審議ヲ兼テ貰フト云フ考ヲ持ツテ居ル、中央

二於ケル種蠶審査會トニ云フモノハ現レテ居リマセヌガ、ヤハリ之ト同様ノモノガ出來ルト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒマス、結局原蠶種ニ關スル規定ト云フモノハ主務大臣が行フカ地方長官が行フカトニシテ、斯ル制限的ノ方法ヲシャウト云フノデゴザイマスガ、第一ニ種類ヲ限定スルト云フコトハドウシテモヤラナケレバナラヌ、遠カラズヤレヤウト云フ考ヲ持ツテ居ル、サウ澤山種類ハナイ、種蠶審査會アタリテ十分ニ研究シテ行ク場合ニ於テモ種類ノ選定ヲシテコレト云フ位ニ限定スルコトハ大シテムダカシクナイト云フ考ヲ持ツテ居ル製造譲受ノ制限ト云フコトマテ行クノハ餘程進ンダ後テアリマスガ、種類ノ制限ハ成ベクヤリタイト云フ考ヲ持ツテ居ル、之ヲヤズテモ大シタ苦痛デナイト云フコトハ當業者専門家等ガ皆一致シテ居ルトコロテアリマスカラ、此事柄ニ付テハ成ベク早クヤリタイ、蠶種統一ノ目的ヲ達スル上ニ於テモ大キナ一ソ段階ヲ附ケルコトガ出来ルト云フ考ヲ持ツテ居ル、之ニ付テ辯明シテ置キタイコトハ地方長官ニヤラセルコトニスルト鎖國主義トナリ各縣皆別々ニヤル、例ヘバ長野縣、群馬縣、福島縣等ノ地方ハ非常ニ迷惑ヲ受ル、斯ウ云フヤウナ論ハチヨイヽ新聞ニ見エルガ、併シ是ハ原蠶種ノ種類ノ制限、原蠶種ノ製造譲受ノ制限スルト云フコトデ養蠶家ノ用ユルトコロノ製種用紙ト云フモノニ付テハ制限ヲ加ヘナイ積アリマス、本當ニ統一ト云フコトヲスル理想カラ申セバ製種用紙マデモ制限シナケレバ統一ハ出來ナイノデアリマスガ、ドウモ養蠶家マテ束縛スルコトハ今日ノ時勢ノ上カラ到底出來ナイ、御承知ノ通り養蠶家ニモ非常ニ巧拙ガアルシ大變價レテ居ルモノモアル、又不憚ノモノモアルソレヲ悉ク網羅シテ斯ウ云フヤウニ變ヘヨト制限スルコトハ非常ナ打擊テ、トテモ今日ノ養蠶家ノ狀態カラ言フトソコマテハ出來ナイ、蠶種製造家ニ付テモ制限ガアル、蠶種製造家ト云フモノハ相當ノ技能ヲ持ツテ居ル経験モアルカラ蠶種製造家ニ對スル制限ト云フ程度ヨリ以上ハ今日ノトヨロデハ出來ナイ、ソレ故ニ蠶種ノ供給地ニ當ツテ居ル方面ニ蠶種製造家ハ奮發シテ善イ種サヘ造レバ擴張スルコトハ出來ル、決シテ門戸ヲ閉鎖セラレタ譯ニナルモノナダナイ、餘程ソコ等ニ誤解ガアリハシナカト思フ、極ク平タク申スト縣デサウ云フ風ニスルト競争ノ規定ヲ設ケズトモ其地方ノ養蠶家ガ此縣デ斯ウ云フ風ニシタノダカラト云フテ、ソコ等ノ地方ニ於ケル蠶種製造家カラ種ヲ買フト云フヤウナ傾向ガアルヤ否ヤ、ソレハ多少アラウト考ヘテ居リマス、是ハ仕方がナイ如何ニサウ云フモノガアツテモ別ニ規則デ制裁スル譯ヂヤナイ、供給地ノ人々ガ奮發シテ造レバ從前ノ通りニ往ケル、ソレハサウ云フ趨勢ガ當然デソコハ競爭ニ任シテ養蠶家ノ任意ニ任スヨリ仕方がナイ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居リマスガ、併シ日本ノ蠶業ノ現在ノ狀態カラ此規定ヲ鎖國主義デアルト云フテ非常ニカマシク言ハレルノハ、少シク考ガ違ツテ居リハシナイカト思フ、サウ云フ考デゴザイマス、ワレカラ其次ニハ同業組合ニ關スル規定アリマス、是ハ從來中央會ヲ組織スルニ付テハ隨分沿革ヲ持ツテ居ルシ斯ウ云フコトヲ前ニヤラウト云フテ行ハレズニ濟ンダコトモゴザイマスガ、併シ日本ノ蠶業ノ現在ノ狀態カラ考ヘマスルト、御承知ノ通り内地ノ生産ヲ合セマスレバ一億ニヤマ及シテ居ルト云フヤウナ大蠶業デアル、殊ニ貿易ノ上カラ言ヘバア、云フヤウナエラライ地位ヲ占メテ居ル、而モ一方ニ隨分競爭者モアル伊太利ハアノ通り佛蘭西モ衰ヘタリト雖モ、尚隨分獎勵等ニ付テハヤツテ居ル、支那ノ將來ハ恐ルベキモノデアル、人造絹絲ノ狀態モ隨分油斷ナラヌモノデアルト云フ風ニ隨分敵ヲ控ヘテ居ル、而モ日本ノ貿易ノ上カラ云ヘバ先ツ今日ノトコ

ロ大ナル商賣トシテヤルベキトコロノモノガナイト云フ以上ハ此蠶絲業ニ非常ニ入レナケレバナラヌト云フコトハ申スマデモナイノデ、此蠶絲業ハ非常ニ小サイトコロノモノカラ持ヘテ、ソレヲ非常ニ大キナモノニ纏メテ、サウシテ大仕掛ノ纏メテ、サウシテ大仕掛ノ大工業ノ所ニ持ツテ行ツテ、之ヲ供給シテ行カウト云フ性質ノモノデアリマスカラ、從ツテ非常ニ錯雜シタ關係ヲ有シテ居ルト云フコトヲ言ヘバ宜カラウト思ヒマスガ、小サイ養蠶家カラ拘ヘテ、サウシテ段々纏メテ非常ニ大キイモノニシテ行クモノデアルカラシテ、利害ノ關係ヤラ種々技術上ノ順序段階等ニシテ、大變錯雜シタ關係ヲ持ツテ居ル、殊ニ養蠶家ト蠶種製造家製絲家ハ或る程度マデ利害ヲ異ニシテ居ル、從ツテ養蠶界ハ議論が多イ、ナカヽ一致ノシニクイノモ無理ハナイ、ドウシテモ議論區々ニ岐レル傾向ヲ持ツテ居ルカラシテ、今日ノ趨勢カラ云フテ見ルト、ドウシテモ全體ノ步調ヲニシテ、一國ノ蠶絲業ニ關スル國是ト云フモノヲ始終變ヘナイヤウニシナケレバナラヌ、是ハ誰モ考ヘルトコロデスガ、サウスルニハ先ツ何カ自治的ノ當業者ノ方ニ於ケル一ノ團體ガアツテ、法律ニ規定シタ團體ガアツテ、意見ヲ纏メルコトニシナイト本當ニ歩調ヲニスルコトハ出來ナイ、近來同業組合ハ百六十モゴザイマスガ、マダ此上澤山出來ルト思ヒマスガ、サウ云フモノヲスッカリ纏メテ中心點ニナルモノガアツテ、蠶絲業界ニ於ケル歩調ヲニスルコトデナイト政府當局者ニ於テモ仕事ヲスル上ニ於テ見當が付カナ、例ヘバ今度蠶絲統一ノ事業ヲヤルニ就テモ隨分議論モ起ルテセウガ、ソレヲ斯ウ云フ中央會ト云フヤウナモノデ意見ノ纏ツタモノガアルトスルト、非常ニ仕事ハヤリヨイ、地方ニ於テモ其通りテ聯合會ト云フモノガアツテ、ソレテ各種ノコトヲ纏メテ居レバ地方官トシテ蠶業ニ關スル施設ヲ行フニ都合がヨイトイコトコロカラ系統的ニ同業總會ガアツテ、聯合會ト云フモノガアツテ、其上ニ中央會ト云フモノヲ組織シテ、步調ヲニシテ進ンテ行クコトニシテ行キタイト云フノガ、此案ノ主眼ニナツテ居リマス、近來ハ同業組合ナドモ實ハ餘り動イテ居ラヌ、又聯合會ナドモ實ハ有名無實デアルト論ズル人モアリマス、實際私共見テ居ルトコロデモ餘り同業組合ガ動イテ居ラスト思ヒマスガ、併シ此組合ガナカツラドウカト云フト、ソレハ有ツタ方ガ宜イノデ、何カ必要ノ場合ハ同業者ノ意見ヲ纏メル必要ガアルガ、結局金ガナイカラ事業ヲヤツテ居リマセヌガ、サウ云フ事柄ハ府縣廳ナリ、郡ノ方ニヤラセルガ宜イカモ知レマセヌガ、同業者ガ府縣廳ヤ政府ノヤルニ任セテ、同業者ト一向連絡モ取レナケレバ、チヨット烏合ノ衆——烏合ノ衆ト云フト語弊ガアリマスガ、サウ云フヤウナモノデ、本當ニコトハ出來ヌ、ヤハリ官民ノ連鎖トナル機關トシテハ少ナクトモ機關ガ要ル、ソレト同ジコトヲ中央政局ニ以テ來テモ同ジコトデアツテ、斯ウ云フコトニ依シテ雙方ノ間ニ連鎖トナツテ、蠶地ニ蠶業上ノ問題ニ屬スルコトアリマスカラ、今此處ニ言明スルコトハ出シタ、最モ財政ノ許ス限リニ於テハ政府ノ中央會ヲシテ活動サセ、尙其下ニアルコロノマスガ、從來蠶病豫防ニ關シテヤツテ來タ實際カラ申シマスト、弊害が多い、例ヘバ蠶病豫防ニ付テ蛾ノ摺替ヲスルトカ、或ハ微粒子病蟲ヲ胡麻化スタンニ非常ニ溫度ノ高イ所ニ母蛾ヲ持ツテ行ツテ置ケバ、微粒子ガチヨット分リニカイ、サウ云フ惡ルイ手段ヲスル、其

他悪ルイ例ヲ言へば隨分アリマスガ、サウ云フ不正手段ニ依ッテ蠶種ヲ造ッテ居ル例ハ澤山アルト云フコトハ皆サンモ御承知デゴザイマセウ、現ニ去年ナドモ長野縣ア不正蠶種撲滅期成同盟會ト云フモノガ出來テ居ル位テ、不正ノ例ナドヲ澤山舉ゲテ來マシタガ、是等ニ依ッテモ弊害ノ多イ事ヲ證明シテ居ル、此蠶病豫防法ニ開シテ検査員ナドガニ臨ミマシテモ隨分惡ルイコトヲシテ、サウシテ普通一般農業者ヲ欺イテ居ル例ガ隨分多イ、ドウシテモ是ハ相當ニ嚴重ナル方法ニ依ッテ取締リヲシナケレバナラヌノテ、現行規程ニ於テモ相當ノ取締規程ハアリマスガ、尙此度ハ二三サウ云フ點ニ就テ嚴重ナル監督ノ規定ヲ設ケルト云フコトニ致シタノアリマス、其中ノ一二例證ヲ申上ゲマスガ、第三十五條是ハ世間デモ議論ガアルヤウデアリマスガ、是ハ是マデモ臨檢ト云フコトハ出來テ居ツタ、臨檢シテ行ツテ見テモ愈々證據物件ヲ押ヘテ置カナケレバ技術上惡イコトヲ知リツ、モ、ドウモ仕様ガナイト云フ例ガ度ミアル、却ニ比較的正直ナ人デアルト、臨檢シテ惡ルイト云フコトヲ言ハレルト、證據物ナドヲ向カラ提供スルガ、少シ横著ナモノニナルト直グ犯罪ヲ湮滅スルト云フコトニ付テノ惡ルイ手段ヲヤル、是マデ當該吏員ガ店舗ニ臨ンダリ、種々ナコトヲシテ看スル、困ツテ居ルコトが度々アル、ドウシテモ差押ヘルマデ行ク規定ガナイト困ルト云フコトガ度ミアルノアリマス、ソレテ此三十五條デ現行法ヨリ一步ヲ進メテ臨檢ノ上搜查差押ヘマデスルコトが出來ル積リテ出來テ居リマスガ、併シ蠶絲業者全體ニ適用スル規定ニナツテ居リマスガ、蠶病豫防ノ目的カラ主トシテ出來テ居ルカラシテ、マサカ横濱ニ於ケル賣込問屋マデ行ツテ検査スルヤウナ趣意デハナイ、主トシテ蠶病豫防、繭ノ賣買等ヲ行ツテ病毒ヲ散布スルト云フコトニ付テノ點ニ於ケル臨機検査ノ規定デアリマスカラ、此範圍ハ改良實質ニ於テハ廣クナル積リテアリマス、兎モ角モサウ云フ風ニシテ置カヌト検査シテサウシテ差押ヘが出來ルコトニセヌト、惡ルイコトヲスルモノハ益々惡ルイコトヲ自由勝手ニサセルト云フコトニナツテ、監督上非常ニ不便ヲ感ズルノデ、斯ワ云フ規定ヲ設ケル積リテアリマス、ソレカラ罰則ノ規定ガ少シ現在ヨリ重クナツテ居ル、是ハ定メテ當業者トシテ苦痛ヲ感ズルデアラウト思ヒマスガ、隨分是マデ御承知ノ通り罰金ノ百圓ヤ二百圓ニ代ヘラレナイ損得ニ影響スルコトデ、罰金ヲ受ケルコトヲ承知シツ、ヤル者が多い、又他ノ刑法ノ改正以來行政法規ニ關スル罰則ヲ見マシテモ此位ナ罰則ノ必要ガアラウト云フコトデ、此罰金ノ規定ヲ少し現行法ヨリ高メルコトニナツタノデアリマス、監督ニ關スル規定ノ大要ハ細目ノモノガアリマスガ、大體サウ云フ譯デアリマス、此外ニ冷藏ヲ取締ルコトハ是ハ冷藏裝置ノ宜シキヲ得ルト否トハ夏秋蠶ニ影響ガアリマスカラ、ソレニ對スル設備其他ニ於テノ取締ヲスルタメニ規定ヲ設ケマシタ、其他蠶種ナリ繭ノ賣買ニ付テ取引市場ニ關スル弊害ガアル、其弊害ニ對シテ取締リスル規定ガアル、其他色々ナリ規定ヲ設ケテアリマス、概要ノ點ヲ御詰申セバサウ云フノデアリマス、尙御質問ニ應シテ御答致シマス

○村上先君 第六條、第二十條、第三十三條、第五十二條ノ命令是ハ草案ガアラウト思ヒマスカラ御配付ヲ願ヒタク、ソレカラ二十二條ノ二項ノ勅令ノ草案、ソレカラ施行規則は等モ御配付ヲ願ヒタイ

○政府委員(下岡忠治君) 出來上ツタモノモゴザイマスシ、マダ草案ノモノモアリマス他日省議ヲ決定スル上ニ於テ多少變ルモノガアラウト思ヒマスガ、御承知ノ上デ……

○村上先君 宜シウゴザイマス
○委員長(野田卯太郎君) 今日ハ是テ閉會致シマス、二日間休會致シマシテ十八日ニ開キタイト思ヒマスガ、ドナタモ能ク下調ヲ願シテ置キタイ

午前十一時四十三分散會

明治四十四年二月十五日印刷

明治四十四年二月十六日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局